



東京の産業と教育

No. 168

会 の 目 的

本会は産業界、教育界及び行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

東京都産業教育振興会創立 7 0 周年を迎えて

東京都産業教育振興会 会長 西澤 宏繁



江戸末期、遣米使節団、遣欧使節団が近代産業文明に衝撃を受け、教育と産業が密接に連動している事を実感、渋沢栄一翁は帰国後「実学の充実」を説かれることとなるが、こうして「産業教育振興」というコンセプトが明確になっていったと言えましょう。

先人達の懸命な努力で明治 17(1884)年には農・工・商の実業学校制度があいついで出来上がり、実業教育制度がめざましく発展する事となります。

しかし、第二次世界大戦後の混乱の中で、実業教育・職業教育の実施は極めて困難・不振に陥っていく(実業学校制度の廃止など)。この流れのなか職業教育を再評価し制度的に補強しようとするさまざまな努力がなされ、例えば全国の農工商水産の各校長会による職業教育法制定推進委員会設立や「振興会」が各地につくられるなど、世論も高まり、ついに議員立法によって昭和 26(1951)年「産業教育振興法」が成立しました。産業教育振興が国家的課題とされたのです。この時産業教育振興の推進エンジンとして「産業教育振興中央会」が作られ全国各県毎に「産業教育振興会」が改組・設立される事となりました。

こうして昭和 30(1955)年 5 月、「東京都産業教育振興会」は誕生しました。

新しい教育基本法(2006)が教育の地方分権化を促進するなか、東京都は大産業集積地である地域特性に対応した教育行政に様々に尽力し、都立高校の数の多さ・多様さのなかで、産業教育振興の旗印を明確に掲げるべく教育長自らが理事長に、役職員の多くを当て職にして「産業

教育振興会」の運営をおこなっています。

産業教育振興法は「地域の実情に即した振興の努力義務(第 4 条)」を謳っています。東京都産業教育振興会は会員の皆様の実情・意見等に少しでも多く触れるべく、学校別産学懇談会を毎年 1 回から 3 回に、また地域別産業教育懇談会は西多摩地域、葛飾区、大田区とようやく 3 地域に拡大してそれぞれ独自の展開になってきています。関与いただいている方々の熱意・ご尽力には心からの敬意と謝意を表します。

これらの懇談会への産業界からの参加者募集はいつも工夫を要するが、今年から東京商工会議所が東商会員の参加動員に協力して頂けることとなりました。東京商工会議所の存在・機能は東京の地域特性の一つであり産学連携実現にはその協力が極めて重要です。東商会員企業と専門高校進路指導教員との交流会も定着してきました(年 2 回)。

当会恒例の諸行事は各種振興奨励事業(教育功労者表彰、永年会員功労者表彰、研究団体助成、作文コンクール、優良卒業生選奨等)など年々着実に執り行われています。懸案であった東京都産業教育振興会のロゴマークも専門高校生の作品が最優秀作品として選ばれ活用に至っています。令和 2(2020)年には産業教育の活性化に向けた提言を理事会や懇談会の議論のもと取りまとめ各方面に発信しました。

当会は首都の会で「全国産業教育振興会連絡協議会」の理事長職の立場にもあり、「産業教育振興」がより広くより良く浸透する様に引き続き地道に精進して参ります。

会報第 1 6 8 号のコンテンツ

- | | | | |
|-----------------------|--|------------|-------------------|
| 1 p ; 巻頭言 | 2 p ; 実践報告 | 3 p ; 実践報告 | 4 p ; 在校生からのメッセージ |
| 5 p ; 卒業生からのメッセージ | 6 p ; 新会員校の紹介 | | |
| 7 p ; 産学懇談会 (第 1 回) 等 | 8 p ; 創立 70 周年記念総会及び講演会報告, 作文コンクール作品募集 | | |



**【実践報告】高校生による手作り電気自動車（EV）コンテスト
「エコ1チャレンジカップ2024」の取組と成果
東京都立総合工科高等学校 主任教諭 笹平 篤生（自動車部顧問）**

1 はじめに

本校は世田谷区成城にある都立小石川工業高校と都立世田谷工業高校が発展的統合により、世田谷工業の土地に平成17年に誕生した定時制課程を併置した学校である。全日制課程には、機械・自動車科、電機・情報デザイン科、建築・都市工学科を、定時制課程には、総合技術科を設置している。工業高校の卒業後の進路として、一般的には就職や専門学校を思い浮かべる方が多いと思われるが、本校は卒業生の約6割の生徒が4年制の工学系・工業系の大学及び専門学校への進学を目指している。

2 エコ1チャレンジカップとは

公益社団法人自動車技術会関東支部、東京都市大学、日産自動車株式会社が共催する1998年より行われている中学生・高校生を対象にした自作電気自動車のレース及びコンテストである。本校は、部活動（自動車部）として2013年より参加している。車体の構造は、自転車のフレームを改造したものやゴーカートタイプのものなど様々なものがあり、本校のものはゴーカートタイプのものである。大会事務局より支給されるオートバイ用の12Vバッテリー以外は、形状や構造は自由であるが、走行中必ず3輪が路面に接地していることが条件となっている。また、レース前には車両検査、ドライバーのヘルメット着用や服装検査が行われる本格的な大会である。

3 本校では

写真1のような3輪のゴーカートタイプである。なるべく軽量コンパクトで速度がそれほど速くないためカウリングなどは省略している。走行用モーターは電動カートレース用の専用モーターを取付けている。



写真1 3輪のゴーカートタイプ



写真2 大会走行の様子

4 R6大会では

大会3日前に電気系統の故障が発生し車両が走行不可能になり、モーターとコントローラーを以前使っていたものにそっくり取り換え大会に出場することになった。何とか完走したものの順位は中位といった結果となった。毎年、先輩が後輩を引っ張る形で大会に臨んでいる。今も車両の改良を進めており、次期大会が楽しみである。

**【実践報告】「第23回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト
文部科学大臣賞」受賞に至る指導方法等について
東京都立園芸高等学校 主任教諭 水上 亜海**



1 はじめに

本校は明治41(1908)年に東京府立園芸学校として開校した農業・園芸の専門高校です。「園芸科」「食品科」「動物科」の各科では、それぞれ特色ある学びの実践を行っています。ここでは、園芸科「園芸デザイン」の授業での学びを活用したプロジェクト活動や様々なコンテストへの参加など、学習成果のアウトプットの場とその成果について報告します。

2 プロジェクト活動

Life Filled with Flowers プロジェクト(通称 LFF)。このプロジェクトでは、花の魅力を発信し、花を好きになってもらい、花が生活の一部になることを目標に様々な活動を行っています。フラワーロスと若年層の花購入率の低迷の2つを課題として設定し、「高校生が花卉業界を盛り上げていく!」をモットーに、世田谷区の切り花を使用した地域でのフラワーアレンジメント講習会、中学生へのプロジェクト発表、来校された方への歓迎のコサージュの制作などの活動を行います。生徒が丸となってプロジェクト活動の企画と運営を行うことにより、「思考・判断・表現」「知識・技術」「主体的に取り組む態度」について様々な面で、生徒の成長を感じています。

3 技術力向上を目指して

LFFの活動をより充実させるために、生徒に専門的で高度な技術を身に付けさせることが必要になりました。そこで昨年度、例年3年生が行っている国家資格であるフラワー装飾技能士3級試験を2年生で実施、翌年3年生ではさらに難しい2級への挑戦を試みることにしました。また、東京都学校農業クラブ連盟大会や日本全国から代表生徒が集い、競い合う全国産業教育フェアへの出場など、生徒が活躍できる場を広げていくことにしました。結果として、上級生と一緒に参加



した2年生8名全員が3級技能士に合格、各種コンテストでは最優秀賞ならびに優秀賞を受賞することができました。中でも、第34回全国産業教育フェア栃木大会第23回全国高校生フラワーアレンジメントコンテストでは、約70名の代表生徒と競い合った結果、1位にあたる金賞及び文部科学大臣賞を受賞することができ、生徒の達成感と大きな自信につなげることができたと感じています。



4 外部講師の活用

本校では、職業能力開発協会との連携や外部人材活用事業を用いて、熟練技能士の方に授業や技能検定、コンテストの指導に入っていただく場を設定しています。外部で活躍するプロの目が入ることにより、時代の変容や社会のニーズに即したより高度な知識と技術を身に付け、職業人としての意識、能力の向上に努めています。

5 まとめ

本校では、進学と就職を合わせ毎年10名前後がフラワー装飾分野に進路を選択します。これは園芸科の約1/6弱の人数に当たります。専門高校の教員として生徒の進路を考えたときに、より一層学びの内容を充実させる必要があると考えます。

今年は初の試みとなるフラワー装飾技能士2級試験への挑戦があります。すでに昨年度から練習が始まっていますが、主体的に練習に取り組む生徒の姿を見て、いつも感心します。これからも生徒が活躍できる場、アウトプットの場の設定、生徒の学ぶ姿勢を大切にしていきたいと思います。

在校生からのメッセージ INFINITY

昭和鉄道高等学校

第3学年 中村 拓人

私が通うこの昭和鉄道高等学校は日本で唯一、校名に『鉄道』の文字が付く学校です。多くの生徒が鉄道会社を目指し勉強しており、もちろん、一般企業や4年制大学へ行く生徒もあり、生徒一人一人の進路に合わせたカリキュラムとなっています。2年次からは運輸サービスコース（文系）・運輸システムコース（理系）に分かれその中にも大学進学を目指すⅡ類と就職を目指すⅠ類に分かれます。また鉄道専門科目である「旅客営業」や「車両」、「運転法規」など、他の学校では学べないような科目が多くあります。1年次には「工業技術基礎」という科目で実際の車両を模したシミュレーター等で事故への対応や信号の仕組み等を学びます。2、3年次には1年次



に学んだ「車両」の勉強をさらに詳しく勉強します。他にも「運転法規」の授業では鉄道に関する法律や省令について学びます。これらの専門科目の他に、資格試験のカリキュラムも充実しています。旅行業の仕事を行う際に必要な旅行業務取扱管理者や、社会人になる上で必要なビジネスマナー基礎などこの他にも様々な講座が設けられています。また、この学校一番の魅力はホスピタリティマインドの力を身につけられることです。鉄道会社はもちろん、社会人になる上で欠かすことのできない力を高校生で身につけられるのはとても素晴らしいことだと思います。

私の夢は、地元の新潟で鉄道を通して地域に貢献することです。この学校で学んだ知識を活かし、夢の実現に向け頑張りたいと思います。中学生の皆さんも夢に向かって頑張ってください。応援しています。中学生の皆さんも夢に向かって頑張ってください。応援しています。

在校生からのメッセージ INFINITY

東京都立世田谷総合高等学校

第2学年 田中 莉音

中学3年生の時、進学先として、美術の勉強とともに多くの事を学ぶことができ、美術系大学・専門学校どちらも考えられる高校を探していました。いろいろと調べたところ、文系・理系・美術系など6つ系列を持ち、2年次から自分の進路や興味関心に応じて100以上の選択科目から自分で勉強する講座を選び、オリジナルの時間割を作ることができる世田谷総合高校が見つかりました。ここならば、美術について学べるとともに、英語や社会科科目も勉強することができ、将来の自分の活動に役に立つと思いました。また、特別棟・ものづくり棟・陶芸棟など美術やものづくりに関係する建物がいくつもあり、施設・設備が充実しているところも魅力でした。

高校に入学すると、学校行事に熱い生徒が多いことに驚きました。体育祭や文化祭は生徒が中心となって作りあげ、体育が得意な生徒は体育祭で、絵を描いたり、物を作るこ

とが得意な生徒は文化祭で、とそれぞれの生徒が自分の良いところを活かして活躍していたことが印象的でした。

将来の夢はPCを活用したデザイナーです。その夢をかなえるため、専門科目として「素描」、「ビジュアルデザイン」、「グラフィックデザイン」を学んでいます。3年次ではこれらの科目をさらに発展させた講座を選択し、自分らしいデザイナーになれるように勉強していきたいと思っています。



1年次制作作品「深透呼吸」

卒業生からのメッセージ BEYOND

東京都立六本木高等学校 令和6年度卒業
法政大学国際文化学部国際文化学科 岩井 友美

私は、家族や中学時代のフリースクールの先生から勧められたことがきっかけで、大学に進学することを決めました。また、中学まで楽をしてきてしまった分、勉強を本気で頑張っ、それで結果を出せたらカッコいいなと思ったので、一般受験に挑戦しようと思いました。



法政大学を選んだのは、合格した大学の中で一番志望度が高かったからです。もともと社会学や文化学に関心があったので、それらが学べて、自宅から通いやすい大学を探し、全部で8校10学部を受験しました。その中でも、法政大学国際文化学部は留学制度があるため、自分の視野を広げながら言語力も養うことができそうだと思い、魅力を感じました。

六本木高校では時間割の自由度が高く、自分

の時間を作りやすかったので、1年生の夏から塾に通っていました。中学までの遅れを取り戻し、勉強の習慣をつけることができたので、早くから始めてよかったと思います。また六本木高校は、他の高校と違って受験期も授業があるので、学校も疎かにせず適度にバランスを保つことができるのが魅力です。さらに、六本木高校は総合学科であるため、様々な進路を志す友人と出会うことができました。そして、大学進学のことしか頭になかった私の視野は大きく広がりました。ここでできた繋がりは今後も将来を考えていくうえで刺激になっていくと思います。

最後に、私は高校生活を通して、学力だけでなく、人としても成長できた部分が多くあったと確信しています。努力をした経験は絶対に自分の財産になると思うので、最後まで自分を信じて頑張ってください。

卒業生からのメッセージ BEYOND

東京都立八王子桑志高等学校 平成24年度卒業
東京都立八王子桑志高等学校教諭 高関 晴子

私は都立八王子桑志高等学校のデザイン分野へ進学しました。

この学校はデザイン、クラフト、システム情報、ビジネス情報の4つの分野がある工業と商業が合併してきた産業科の高校です。私は中学生の時に、テキスタイル、CG、プロダクトなどデザインを幅広く学びたいと思ったためここへ進学を決めました。



授業がどれも専門的で大変でしたが、とても楽しかったです。特に印象的だったのは、先生方が一人ひとりのやりたいことに寄り添い、共に作品を作り上げていくところです。やり方を教えてそのまま作るのではなく、どうしたらもっと良い作品になるのか、時には学校に遅くまで残って一緒に頭を悩ませてく

れました。そこから作り上げた課題はとても思い入れのあるものとなりました。この学校を卒業するころには、同じ立場で生徒のものづくりに寄り添いたいと思うようになり、高校で得た知識をより深めるため大学へ進学しました。

現在、私は卒業した都立八王子桑志高校デザイン分野の教員になり、かつて自分が受けた授業を担当しています。生徒のアイデアを実現するのは大変ですが、頭をひねりながら一緒に作品を作り上げていくのは、とても楽しくやりがいを感じます。また、卒業生ということもあり、生徒も私の話をより興味深く聞いてくれます。振り返ってみても、幅広く様々なものづくりを学べる八王子桑志高校に入学してよかったと思っています。ここに限らず専門高校は確実に自分の力になり、大学進学や就職などで知識や技術が役立ちます。まだ進路に悩んでいる人も多いかと思いますが、卒業生としても教員としてもお待ちしております。

新会員校の紹介

学校法人 白梅学園白梅学園短期大学 学長 小玉 重夫
〒187-8570 小平市小川町 1-830 TEL 042-342-2311

学校法人白梅学園学園短期大学は 1942 年に設立された東京家庭学園（学園長：穂積重遠）を前身に 1957 年設立しました。

開学以来、保育士、幼稚園教諭の養成のための保育科を設置しています。

本学は、建学の理念であるヒューマンイズムの精神に基づき、保育・幼児教育と子どもを取り巻く環境や現代社会に関する理解を深め、子どもの権利を尊重し、子どもや家族の健やかな成長・発達を支援するために、豊かな人間性と確かな専門的力量を身につける教育を行っています。

保育士資格、幼稚園教諭2種免許状を取得とともに、1年次から行われるゼミナールでは少人数制でじっく



り学び、卒業後のキャリアを見据えながら自身の得意分野や専門性を伸ばします。幼稚園、保育所、施設での実習では実習指導教員とゼミナール担当教員と連携し、きめ細やかなサポートを行い、保育者となるための学びを展開しています。

就職率は毎年100%（2023年度卒業生：100%）に近い実績があり、福祉職を中心とした公務員採用合格実績があり、1年次より様々なガイダンス等を行いながら一人ひとりに寄り添うキャリア支援、就職支援を実施しています。そのほか併設大学への編入学の推薦制度があり、毎年四年制大学への編入学実績があります。



新会員校の紹介

学校法人 西田学園 アルファ医療福祉専門学校 校長 瀧 将仁
〒194-0022 町田市森野 1-7-8 TEL 042-729-1026

アルファ医療福祉専門学校は、東京都町田市に位置し、医療・福祉・保育など多岐にわたる分野を学べる専門学校です。町田駅から徒歩5分の立地に、1号館から4号館までの校舎を展開し、学生の学びを支えています。

【美容学科を新設】

2026年4月には新たに「美容学科」を開設予定です。アートやデザインの教育・研究機関である芸術大学などのアカデミックなメソッドを取り入れ、新しい時代の美容家・美容師の育成を目指しています。

【実践的な授業が特徴】



授業は現場経験豊富な講師陣（園長、施設長、治療院院長、研究者など）が担当し実践的な知識や技術が学べます。少人数制で、学習に応じた個別サポート体

制が充実しており、国家資格取得を目指すカリキュラムが組まれています。



【多彩な資格取得が可能】

柔道整復師（国家資格）・はり師、きゅう師（国家資格）・保育士、幼稚園教諭・介護福祉士（国家資格）・社会福祉士、精神保健福祉士（国家資格）・美容師（国家資格）など多彩な資格取得も可能です。また、現在2,200名以上の在籍生がおり、国家資格取得に向けて学習しております。

第1回大田区産業教育懇談会を開催

3月13日（金）に大田区立池上会館2階集会室にて令和6年度大田区産業教育懇談会（第1回）を開催しました。

この事業の目的は、大田区内の企業、小学校・中学校・高等学校・専門学校、大田区役所、大田区教育委員会、東京都教育委員会、一般社団法人大田工業連合会、一般社団法人大田CP21、東京都産業教育振興会等が一堂に会し、情

報交換を行うことにより、相互の理解を深め、義務教育から高等学校教育まで一貫した大田区独自のキャリア教育の構築を図り、将来の大田区及び大田区の産業を担う人材の育成に資することです。当日は、大田区産業経済部、小学校、中学校、高等学校から7発表を行いました。大変素晴らしい発表ばかりで有意義な懇談会となりました。

第4回葛飾区産業教育懇談会を開催

5月12日（月）「テクノプラザかつしか」を会場として、令和7年度葛飾区産業教育懇談会を開催しました。昨年同様に全体会では東京商工会議所葛飾支部浅川弘人会長、東京都産業教育振興会西澤宏繁会長より挨拶、教育懇談会の趣旨説明、「専門高校における民間OB等活用事業の取組」、「東京商工会議所葛飾支部での取組」が発表されました。分科会では発表を受け、「専門高校における民間OB等活用事業の取組」と「区内中学校の職場体験事業」をテーマとして意見交換を行いました。

その後の全体会にて、意見交換された内容を分科会ごとに発表していただきました。次に、青木克徳葛飾区長、岩井宏公益財団法人産業教育振興中央会専務理事よりご挨拶をいただきました。また、感想を葛飾区教育委員会山梨智弘学校教育担当部長、東京都教育庁指導部河野敏弘主任指導主事（産業教育担当）よりいただき、東京商工会議所葛飾支部金子昌男副会長（本会副会長）の閉会挨拶をもって閉会となりました。東京商工会議所葛飾支部の皆様には、大変お世話になりました。

産学懇談会（第1回）を都立工芸高校で開催

7月11日（金）、都立工芸高等学校を会場に、本年度第1回の産学懇談会を開催しました。工芸高校は、1907年に創立されました。その歩みは今年で118年を迎えます。2007年に発行された「都立工芸100年の歩み」



では「工芸高校設立委員会の委員長は、実業家で工業教育奨励の旗を振っていた渋沢栄一であったと巻頭のページで紹介されています。現在、工芸高校には、「アートクラフト科」、「マシンクラフト科」、「インテリア科」、「グラフィックアート科」、「デザイン科」の5学科が設置され、夜間定時制は「デザイン科」を除く4学科が設置されています。

開会のご挨拶を西澤宏繁会長、会場校深澤栄次統括校長、長谷克己都立学校教育課高等学校教育課ものづくり推進担当課長よりいただき、その後、校内見学（施設・設備等）を行いました。見学後、深澤統括校長から学校概要や特色ある教育活動について説明をいただいた後、懇談会に移り、参加者から施設見学・学校説明に対する質問・感想が述べられました。また、学校の現状と課題、教育活動への期待について、意見交換をし、有意義な機会となりました。都立工芸高等学校の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。



令和7年度創立70周年記念総会及び講演会報告

【創立70周年記念総会】

創立70周年記念総会を6月19日(木)に全商会館にて開催しました。

開会の挨拶を西澤宏繁会長、坂本雅彦理事長（東京都教育委員会教育長）にいただき、引き続き、来賓祝辞を岩井宏公益財団法人産業教育振興中央会専務理事、加藤瑞樹東京都公立高等学校長協会会長（都立稔ヶ丘高等学校長）、佐藤敏数東京都中学校会会長（武蔵野市立第二中学校長）にいただきました。

その後、総会議事に移り、事務局から3件の報告、事業報告案など6件の議案を提案し、審議の結果、全議案とも原案どおり承認されました。議事に続いて、創立70周年を記念し、「産業教育の歩み」と題して、常任理事の長谷克己教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長の講話がありました。総会終了後、本会に半世紀を超えて加入し産業教育の振興のために尽力されてこられました会員企業6社に対して感謝状を贈呈しました。さらに、2団体・社に対して産業界会員功労者（永年会員）表彰をいたしました。

以下に今年度の役員をご紹介します。

会 長 西澤 宏繁（留任）
 （ForeVision 株式会社取締役 監査等委員会委員長）
 副会長 金子 昌男（留任）
 （株式会社カナック企画相談役）
 副会長 小林 治彦（留任）
 （東京商工会議所常務理事）
 副会長 並川 直人（新任）
 （東京都立農業高等学校長）
 理事長 坂本 雅彦（留任）
 （東京都教育委員会教育長）
 常任理事 佐藤 直樹（新任）
 （東京都教育庁都立学校教育部長）
 常任理事 小坂橋 美穂（新任）
 （東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長）
 常任理事 長谷 克己（留任）
 （東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長）
 常任監事 椿 三枝（新任）
 （東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課統括課長代理）



【創立70周年記念講演会】

総会終了後、記念講演会を開催しました。松原仁京都橘大学教授を講師として、「AIによって産業はどう変わるか そのために教育はどう変わるべきか」という演題で行われました。講演内容は、3月上旬発行予定の会誌「東京の産業教育」第63号にてご紹介いたします。



松原仁教授



令和7年度「作文コンクール」作品募集

主 催 東京都産業教育振興会
 後 援 東京商工会議所
 応募資格 会員校に在籍する生徒・学生
 応募締切 9月12日（金）
 表 彰 入選者には表彰式（12月19日（金）東京商工会議所）において本会より賞状並びに賞品を授与します。
 選外者にも参加賞を贈呈します。

※詳しくは、ホームページを御覧ください。

事務局より

令和7年度「会報」第168号をお届けいたします。発行に際し、御協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。皆様からの御感想、御意見などをお寄せください。

発行 東京都産業教育振興会

住所 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部
 高等学校教育課内

電話 03-5320-6729

ホームページ <https://www.tosanshin.org/>

印刷  教育庁サポートオフィス
 パレット